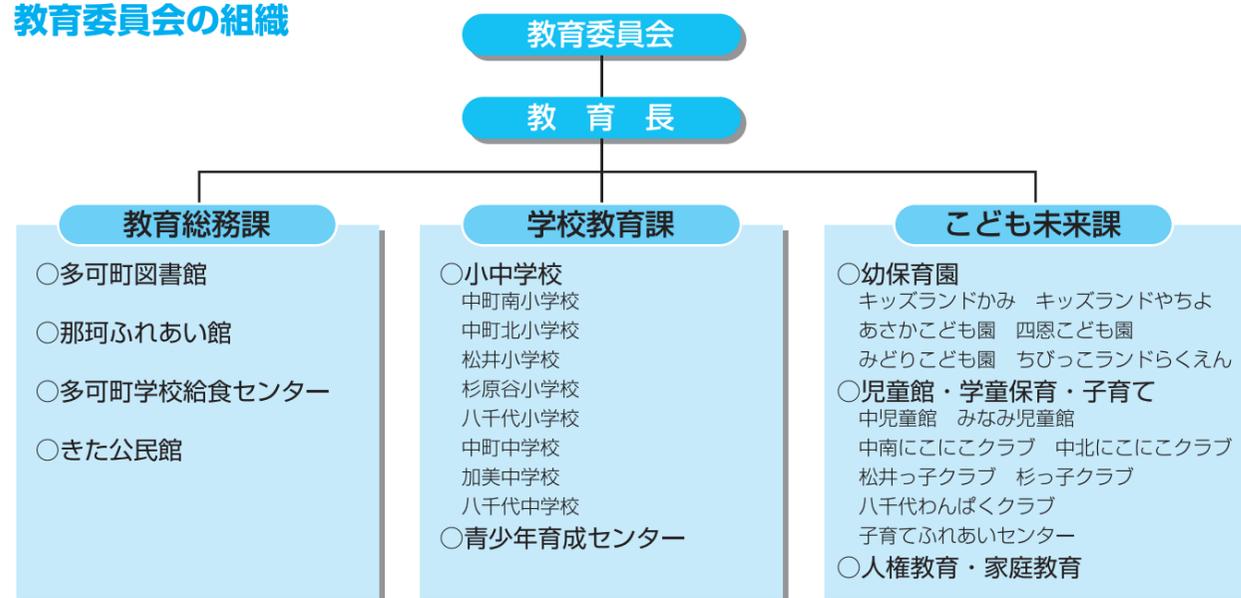


教育委員会の組織



平成28年度 小・中学校 児童生徒数 [H28.4.1現在]

() 数字は学級数

学校名	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	合計
中町南小学校	44 (2)	46 (2)	44 (2)	53 (2)	46 (2)	64 (2)	297 (12)
中町北小学校	26 (1)	28 (1)	20 (1)	29 (1)	30 (1)	28 (1)	161 (6)
松井小学校	28 (1)	28 (1)	25 (1)	27 (1)	30 (1)	45 (2)	183 (7)
杉原谷小学校	26 (1)	14 (1)	26 (1)	23 (1)	25 (1)	32 (1)	146 (6)
八千代小学校	47 (2)	47 (2)	47 (2)	52 (2)	51 (2)	57 (2)	301 (12)
合計	171 (7)	163 (7)	162 (7)	184 (7)	182 (7)	226 (8)	1088 (43)
学校名	1学年	2学年	3学年	合計			
中町中学校	96 (3)	78 (2)	109 (3)	283 (8)			
加美中学校	53 (2)	70 (2)	76 (2)	199 (6)			
八千代中学校	49 (2)	51 (2)	71 (2)	171 (6)			
合計	198 (7)	199 (6)	256 (7)	653 (20)			

なお、学級数に特別支援学級数は含んでいません。



一人で悩まないで、まず相談

青少年育成センターでは、学校教育課内に相談室を開設し、いじめや不登校、友人関係や進路などで悩んでいる児童・生徒さんや保護者の皆様方を対象にした相談業務を行っています。

専門員が常駐し、きめ細かな相談やアドバイスをさせていただきます。

どうぞお気軽にご利用ください。

多可町青少年育成センター (32-3423)

また、キッズランドやちよ内の子育てふれあいセンターでも、就学前(0～5歳児)の子どもをお持ちの保護者の皆様向けに、子育て相談を実施しています。なお、ご利用の方は、来館もしくは電話・メールでも受け付けていますので、お気軽にご相談ください。

多可町子育てふれあいセンター (37-2525 kosodate@town.taka.lg.jp)

多可町子どもタイムズ 2016年度

2016.05.01 平成28年 特集号 発行：多可町教育委員会 〒679-1114 多可郡多可町中区岸上224-17
TEL：0795-32-2816 E-mail：kodomo@town.taka.lg.jp

多可町の教育重点施策

明日の多可町を担う こころ豊かな人づくり

近年、グローバル化や情報化の急速な進展、価値観の多様化などにより、私たちの生活は、大きく変わってきました。そして全国的に人口減少や少子高齢化が進む中、多可町においても子どもの数が年々減少しています。

こうした中、子どもたちの教育を第一に考え、小学校のあり方を地域の皆様とともに検討した結果、八千代区の3つの小学校(八千代南小学校、八千代北小学校、八千代西小学校)を3月末で閉校、統合し、4月から新たに「八千代小学校」としてスタートすることになりました。

いつの時代もまちづくりの基礎は人づくりにあります。変化が激しく、先行き不透明なこれからの時代を子どもたちがたくましく生き抜いていくためには、柔軟な思考力や豊かな人間関係を築くコミュニケーション力、思いやりの心などとともに、自らの夢や目標を実現するために、生涯学び続ける姿勢を身につけることが求められています。

多可町教育委員会では、本年度「総合教育会議」において、「多可町教育ビジョン」(平成23年策定)を改訂し、「多可町教育大綱」(平成28年度から5年計画)としました。今後は、これを指針とし、子どもたちに確かな学力、人を思いやる豊かな心、健やかな体など、知育・徳育・体育のバランスのとれた「生きる力」を培う教育を充実させていきます。

また、子どもたちが、「ふるさと多可町」に自信と誇りを持って成長し、将来の多可町を担う人材となるよう、多可町の歴史や産業、伝統文化を学ぶ「ふるさと教育」に一層、力を入れていきます。

学校園は、子どもたちにとって安全で楽しく、充実感が味わえる場であるとともに、保護者や地域の人々から愛され、信頼される存在でなければなりません。そのためには教育・保育に携わる者が、その役割と責任を十分自覚して組織的に取り組むことが不可欠です。

町民の皆さんに、「多可町で子育てして良かった」「多可町で学んで良かった」、そして「多可町に住んで良かった」と実感していただけるように、多可町の教育・保育の更なる発展に向けて、全力で取り組んでいきます。

今後とも、ご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

平成28年5月

多可町教育長 岸原 章

幼児教育・学校教育

(1) 「生きる力」の基礎を育む幼児教育の充実

- 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の趣旨及び内容等の周知徹底を図り、子どもの発達に即した教育・保育の充実に努める。
- 多可町の豊かな自然にふれ、ひとり、その中で主体的に遊ばせる活動を取り入れる。
- 集団生活を通して、基本的な生活習慣や態度を身につけさせ、人と関わる力を育成する。
- 感じたことや考えたことを自分の言葉で表現したり、話を聞いたりすることを通して、伝え合う楽しさを味わわせる。

(2) 幼保小中学校の連携の強化

- 幼稚園・保育所・認定こども園から小学校へ、小学校から中学校への円滑な接続のため、登下校体験や体験入学、共同学習、出前授業などの交流活動に取り組む。
- 八千代中学校と八千代小学校を小中一貫教育研究推進校に指定し、義務教育9年間の一貫性のある学習指導や生徒指導をめざす小中一貫教育の研究を進める。
- 小学校への円滑な接続を図るために、中区のこども園の5歳児交流活動を年間5回、多可町全体の5歳児交流活動を年間3回実施する。

(3) 確かな学力の育成

- 各教科の基礎・基本の確実な習得とともに、言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力を育む授業づくりを推進する。
- 少人数授業や小学校高学年の「兵庫型教科担任制」を取り入れ、スクールアシスタント、生活補助員等を配置し、児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導を推進する。
- 放課後に教員OBや地域人材などを活用した「ひょうごがんばりタイム」(補充学習)を実施し、基礎学力の向上を図る。
- 反復練習による読み・書き・計算力を高めるために、学習タイムやモジュール学習を推進する。
- 全国学力・学習状況調査や、町が独自に実施している学力調査を継続して行い、結果を分析・検討し、一層の学力向上に繋げる。
- 外国語指導助手(ALT)を各中学校に継続して配置し、中学校の英語教育や小学校の外国語活動の充実を図る。
- 平成28年度に中町南小学校、中町北小学校、八千代小学校及び全中学校にタブレット及び電子黒板を導入することで、全小中学校へのタブレット及び電子黒板の整備を達成する。これらのICT機器を有効活用した授業づくりを推進する。

(4) 豊かな心の育成

- 「兵庫版道徳教育副読本」や「私たちの道徳」等を活用し、道徳の時間の充実を図るとともに、教育活動全体を通じて道徳性を育成する。
- 同和問題が人権問題の重要な柱であると捉えつつ、女性、子ども、高齢者、障害のある人、外国人など人権教育に総合的に取り組む。
- いじめは、「いじめ防止基本方針」に基づき、迅速かつ組織的に対応する。また、暴力行為、不登校、児童虐待などは、学校園、家庭、関係機関が連携し、未然防止、早期発見、早期対応に努める。
- 「敬老のうたーきっとありがとう」を活用し、お年寄りを大事にする「敬老の精神」を育む。
- 防災教育副読本「明日に生きる」等を活用して、「兵庫の防災教育」を推進する。
- 子どもたちに、「命の大切さ」を実感させるために、子育てふれあいセンターと連携し、乳幼児や妊婦とのふれあい体験を実施する。
- スクールカウンセラーや学校園アドバイザーの活用、町の適応教室等との連携を通して、不登校生の学校復帰を支援する。

(5) 健やかな体の育成

- 米飯については、すべて多可町産コシヒカリを使用し、野菜についても地元産の使用を進めるなど、食材をより充実させ、安全・安心で栄養のバランスのとれた学校給食を提供する。
- 食物アレルギーの子どもたちには、アレルギー専用調理室で調理したアレルギー除去食を提供する。
- 「体力・運動能力テスト」の結果、大部分の種目が前年度の多可町の平均を上回ったが、全国平均と比べると、小学校では握力、中学校では握力と上体起こし、長座体前屈が下回っている。「体力向上推進委員会」を中心に、「運動好きの子ども育成」や「体力・運動能力の向上」をめざして、外遊びの奨励や体育の授業の工夫改善などに取り組む。

(6) 特別支援教育の充実

- 特別支援教育コーディネーターを中心に、支援を要する子どもの実態把握や支援内容について、全職員共通理解のもと、学校園が組織的に推進する。
- 「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成し、一人一人の教育的ニーズに応える教育を推進する。
- 特別に支援が必要な子どもに対しては、生活補助員を配置し、生活や学習活動を支援する。
- 小中学校の通常学級に在籍するLD、ADHDなど特別に支援が必要な子どもに対して、学校生活支援教員による「通級指導」を実施する。

(7) 開かれた学校園づくりの推進

- オープンスクールや学校園だより、ホームページ等を通じて学校園の教育方針や取組、子どもの活動状況を積極的に発信する。
- 学校園関係者評価を活用し、学校園の運営改善に取り組む。また評価結果を公表し、開かれた学校園づくりを推進する。

(8) 伝統や文化、環境をいかした体験活動の充実

- 「小学3年生の環境体験学習」「小学4年生の多可っ子芸術文化体験」「小学5年生の自然学校」「中学2年生のトライやる・ウィーク」の体験学習を推進する。
- ふるさと教育副読本「わたしたちのふるさと多可町」や「ふるさと教育指導書」「杉原紙の歴史」などを活用し、自然や産業、伝統、歴史、文化等について学習する「ふるさと教育」を推進し、町に誇りと愛着を持つ子どもを育成する。
- 「ふるさと教育推進委員会」を発足させ、「多可町ふるさと検定」策定に向けた取組を進める。

(9) 学校園の組織力及び教職員の資質・指導力の向上

- 採用後5年までの教員を対象に若手教員研修会を、指導力のある管理職を育成するために学校経営研修講座を実施する。
また、全教職員を対象に授業づくりや人権教育、ふるさと教育などの研修を実施し、「教育のプロ」としての資質と指導力の向上を図る。
- 県教育委員会のスーパーティーチャーの活用を奨励したり、経験豊かなOB教員を学校に派遣し、各学校園の校内研修を支援する。
- 保育所、認定こども園、キッズランド、小中学校を計画的に訪問し、授業や保育、学校園運営などについて、指導助言を行う。
- 勤務時間の適正化に向けた、「ノー残業デー（定時退勤日）」「ノー会議デー」「ノー部活デー」の取組を推進する。
- 体罰に頼らない指導を徹底するとともに、体罰を許さない学校園づくりを推進する。

(10) 学校園の危機管理体制の充実

- 子どもたちの安全を確保するため、定期的に防災訓練を実施し、災害時の役割分担などについて町の生活安全課との連携を一層強化する。
- 子どもがネットトラブルの加害者や被害者にならないように、スマートフォンや様々なアプリケーションの正しい使い方及びSNSの長時間使用による学習や生活への影響についての指導を充実する。

◎学校園等施設・設備の整備・改修

- 八千代小学校プールの耐震補強改修工事を行う。
- 松井小学校の教室棟を改修する第2期工事を行う。
- 熱中症対策として、中町南小学校・中町北小学校・杉原谷小学校の普通教室並びに特別教室に天井扇（扇風機）を設置する。
- キッズランドやちよ遊戯室棟梁改修工事を行う。
- 中町南小学校北校舎老朽改修工事の実施設計を行う。
- 那珂ふれあい館の軒先改修工事を行う。



◎家庭教育・社会教育

(1) 家庭の教育力の向上

- PTAと連携し、「家庭教育支援冊子」を活用して、子どもの基本的な生活習慣や学習習慣の確立に努める。
- 「多可子どもタイムズ」を年間4回発行し、多可町教育委員会や各学校園の取組等を発信する。
- 毎月の第3日曜日を「家庭の日」として、家族の絆を深めることの大切さを啓発する。
- 児童虐待防止に向けた個別ケース会議、リーフレットや対応マニュアルの活用を通して、虐待の早期発見、早期対応に努める。
- 「夜9時以降SNSやりません運動」を通して、ネットトラブルから子どもを守るための啓発活動を積極的に行う。
- PTCA子育てフォーラムを開催し、学校園やPTA、関係機関などが連携して家庭の教育力の向上に努める。

(2) 安全で安心な地域づくりの推進

- 「子ども見守り隊」や「子ども110番の家」との連携、青色防犯パトロールカーによる通学路などの巡回指導を行う。
- 「多可町通学路交通安全プログラム」に基づき、通学路の安全確保に取り組む。
- 青少年育成センターが中心となって、青少年の非行防止及び早期発見のために、定期補導や特別補導、量販店補導などの補導活動を実施する。

(3) 子ども向け社会教育事業の充実

- 子ども芸能祭を開催し、文化芸能活動に取り組む子どもたちの発表の場づくりを進める。
- 中央公民館播州歌舞伎クラブの活動や子どもへの指導を通して、伝統文化の継承や次世代育成を図る。
- 敬老の日制定50周年を迎え、「おじいちゃんおばあちゃん子ども絵画展」では、友好都市（宮城県村田町、福井県若狭町、鳥取県若桜町）からの作品も展示し、全国に「敬老の精神の輪」を広めていく。

(4) 子育てふれあいセンターや学童保育、児童館事業の充実

- 子育てふれあいセンターで子育て相談や親子ふれあい活動、学習会などを実施し、育児をしている母親などを支援する。
- 学童保育や児童館事業を継続し、群れ遊びなどを通じて子どもの心身の健全な育成に努める。
- 学童保育は、小学校高学年（4～6年）の児童も受け入れる。希望者が多い場合は、ひとり親世帯、障害のある児童などを優先する。平成31年度には、希望者全員の受け入れができるよう計画的に進める。

(5) 図書館の充実

- 地域づくりの情報発信基地、また知の拠点として、生活に密着した暮らしに役立つ図書館をめざし、蔵書の充実に努める。

- 「多可町子ども読書活動推進計画」に沿って、学校園や子育て学習センター等との連携を密にし、子どもが読書活動に取り組みやすい環境づくりを支援する。また「読書手帳」の推奨を広め、読書意欲の喚起や読書習慣の確立を図る。

(6) 那珂ふれあい館の充実

- 地域の歴史学習の拠点として、ボランティアガイドと連携しながら、町の歴史・文化を発信する。
- 「おもしろ歴史セミナー」や「多可町歴史探訪ツアー」を開催する。学校園や集落、グループへの出前講座も推進する。
- 「杉原紙総合調査委員会」を立ち上げ、「杉原紙」の調査研究を実施し、国指定文化財さらにはユネスコ文化遺産登録をめざす。

◎教育委員会事務局

(1) 就学前教育・保育の充実

- 子ども・子育て会議を継続して開催し、「多可町子ども・子育て支援事業計画」（平成27～31年度の5カ年計画）が順調に進められているか検証する。
また、公私連携によるキッズランドの運営については、引き続き、子ども・子育て会議で検討する。
- 幼稚園教育の質の向上及び保育の充実を図るために、幼稚園教育研修事業を引き続き、実施する。また、5歳児教育の充実と小学校へのスムーズな移行をめざして、5歳児教育共通カリキュラムを作成する。

(2) 子育て支援の充実

- 「病後児保育事業」とともに、本年度から、病気中の子どもを預かる「病児保育事業」を実施する。

(3) 学校給食センター調理業務の民間委託

- 学校給食センター運営にかかる検討委員会からの答申をもとに、平成29年度実施に向け、具体的な計画の作成、保護者や関係者への説明会を開催し、委託業者の選定等を計画的に実施する。

(4) 教育委員会等の公開

- 開かれた教育委員会をめざして、定例教育委員会並びに総合教育会議の内容を充実し、公開とする。ただし、個人情報に関する案件は、非公開とする。

(5) 教育委員会事業の点検と評価の公表

- 教育委員会の権限に属するすべての事務事業の管理及び執行状況の点検と評価を行い、その結果を公表する。

(6) 保護者、児童・生徒、教職員を日常的に支援する体制づくりの推進

- 教育相談室を充実させ、子ども相談（電話等）を実施する。
- 学校園アドバイザーを配置し、授業づくり・学級経営・生徒指導などの面で学校園を支援する。